

平成 28 年度「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました。



プログラム名

目に「見えない」しょうがいをもつ人と、会って、話して、遊んでみよう

実施代表者: 日本赤十字北海道看護大学 看護学部 講師 吉谷 優子
実施分担者: 日本赤十字北海道看護大学 看護学部 教授 河原田 榮子
日本赤十字北海道看護大学 看護学部 教授 中岡 良司

ひらめき☆ときめきサイエンスは、独立行政法人日本学術振興会の委託事業で、大学で行っている最先端の科研費の研究成果について、小学校5・6年生、中学生、高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。本学では小学校5・6年生・中学生及び高校生を対象にしたプログラム『目に「見えない」しょうがいをもつ人と、会って、話して、遊んでみよう』を、平成 28年9月24日(土)に25名の参加を得て開催しました。

プログラムの目的

本プログラムでは、将来を担う子ども達達が障がい者とふれあう機会を設け、障がいの中で、特に見た目にはわかりにくい「精神障がい」を持つ人との交流を通して、障がいの多様性と必要な支援、「ノーマライゼーション」実現について考える機会を設けることを目的にプログラムを考えました。

プログラムの概要

①講義

「ノーマライゼーション社会の実現を目指して」と題し、精神障がいの説明や精神障がい者の普段の生活、就労支援活動について説明しました。



②ゲームによるアイスブレイキング



③ 絵画制作

地域の障害者就労支援施設(社会福祉法人北の大地)に通所する精神しょうがい者と支援員、子ども達、プログラム実施者を交えて7グループに分かれ、しょうがいの体験、しょうがい者との交流の体験などを語り合いながら、「ノーマライゼーションが実現された将来のまち」という絵を各グループで作成し、楽しみながらノーマライゼーションを考えました。



④作品発表会



⑤修了式（「未来博士号」授与）

河原田榮子教授から河口てる子学長を代行して受講者ひとりひとりに修了証書が手渡され、「未来博士号」が授与されました。



⑦施設見学

修了式が終わった後、希望者には、一緒に大学内を回って施設を見学していただきました。



●記念撮影

本プログラムの実施者、実施に協力いただいた皆さん、参加いただいた皆さんで記念写真を撮りました。



参加者及び協力者の皆様、ありがとうございました。

（写真の掲載は、参加者や実施協力者の皆さんの了承を得ています。）